

TAKEUCHI SEIHO:
THE MAN BEHIND
THE PAINTER

知られざる竹内栖鳳

人間 栖鳳

2025年
12月10日[水] — 22日[月]

ご入場時間＝午前10時30分～午後7時(午後7時30分閉場)

※最終日12月22日(月)は午後5時30分まで(午後6時閉場)

会場＝日本橋高島屋S.C.本館8階 催会場

入場無料

企画・協力＝高島屋史料館

※都合により、催し内容・会期などが変更になる場合がございます。

最新の情報は日本橋高島屋S.C.のホームページをご覧ください。

※安全のため、小学生以下のお子様は必ず保護者の方ご同様に会場へご入場ください。



Takashimaya S.C.



《富士》1893年



『栢風回顧』1943年・高島屋美術部発行



竹内栢風 勤休簿 1889年

近代日本画の巨匠 竹内栢風(1864—1942)は、20代半ば頃より、高島屋の画室に画工として勤務していました。東洋と西洋の絵画表現を融合し日本画を革新したといわれる栢風。実はその素地は、高島屋での仕事で培われたといっても過言ではありません。なぜなら、明治期の高島屋は、輸出用染織品の下絵制作のため、外国の雑誌や画集、写真集などを収集し、栢風ら若い画工と共に、世界で通用する“新しい絵”を研究していたからです。京都では唯一の海外事情に触れることができた画室は、若き日の栢風が研鑽を積んだ場でした。やがて、栢風監修のもと、高島屋が次々に製作した“美術染織品”は各国の博覧会で高い評価を受け、製品は続々と海を渡っていきました。当時、世界の人々を魅了した栢風と高島屋の仕事は、近代日本史において特筆されるべきものといえるでしょう。

その生涯を通じて高島屋とは深い関わりを持った竹内栢風。高島屋史料館が所蔵する作品や書簡を通して、喜び、怒り、詫げ、笑う、一知られざる「人間 栢風」の素顔をご紹介します。



《白梅》1940年頃



《桃梨》四代飯田新七還暦祝画帖 1918年頃



《家鴨》四代飯田新七喜寿祝画帖 1935年頃



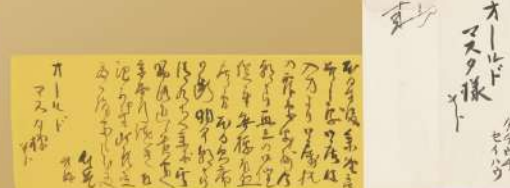
《国瑞》1937年

表面作品(上から)

- ・杉戸《鶏の図》(部分) 年代未詳 ・長襦袢《龍》(部分) 明治中期
- ・鉢《老松》(部分) 明治一大正期 ・杉戸《雀》(部分) 年代未詳
- ・《春秋花卉彩画孟》(部分) 1893年



竹内栢風書簡 飯田藤二郎宛 1899年



竹内栢風書簡 飯田新兵衛宛 1889年頃

ギャラリートークのご案内

■12月10日(水)・13日(土)・14日(日)

■各日11:00/14:00 約30分 お申込み不要、開始時間に会場入口付近にお集まりください。

■講師:高井多佳子(高島屋史料館研究員)

Takashimaya S.C. NIHOMBASHI

〒103-8265 東京都中央区日本橋 2-4-1 TEL 03-3211-4111